

所報 あきた

所報あきた 110号

平成27年1月26日発行

発行所 曹洞宗秋田県宗務所

発行責任者 越姓玄悦

〒010-0812 秋田市泉三嶽根15-18

TEL (018)868-6871

FAX (018)868-6872

<http://soto-akita.com>

info@soto-akita.com

題字 能代市倫勝寺 山田晃一

写真 仙北市 江橋清男

新春のお慶びを申し上げます

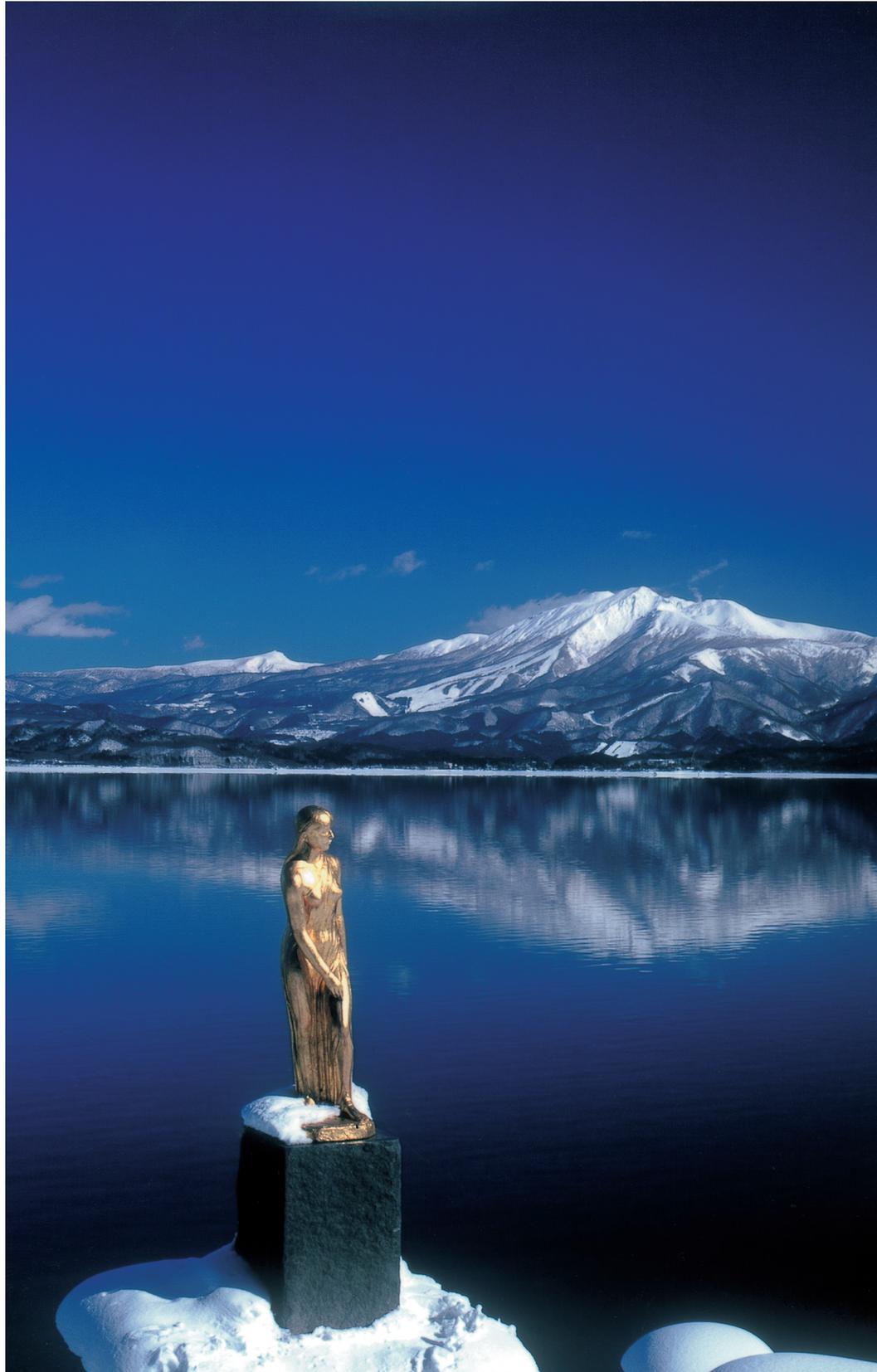
旧年中は何かとご法愛を賜りまして

誠にありがとうございました

本年も決意を新たに職員一同

業務遂行、教化活動に邁進してまいります

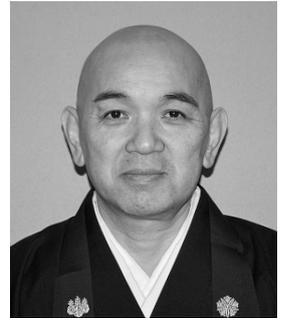
曹洞宗秋田県宗務所職員一同 九拜



大本山總持寺 二祖峨山韶碩禪師 六百五十回大遠忌 秋田県宗務所 檀信徒本山研修会

平成26年9月9日





新任に当たって

曹洞宗秋田県宗務所 所長 越 姓 玄 悦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。今冬は十二月初旬から雪が多く、地域によっては平年の二倍、三倍の降雪量を記録したというところもあったようですが、管内御寺院様におかれましては恙無く新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

昨年十二月の任期満了に伴う宗務所長改選により、佐々木正悦前所長の後任として不肖私が大任を御引き受けすることになりました。不徳にして浅学非才、誇るべき実績も持たない身ではありませんが、管内御寺院様の総意を旨とし、宗務所行政本来の道を踏み外すことなく精進を重ねていく所存でございますので、何卒御指導、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

前所長佐々木老師は、豊かな見識に裏付けられた熱意溢れる

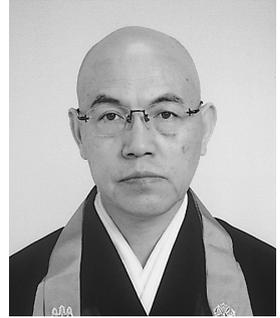
リーダーシップにより、四年間に亘り宗務所役職員を牽引され、時には英断を以って東日本大震災以降の難題の多い宗務所行政に輝かしい足跡を残されました。その後継としては、いささか非力にて荷の重さを感じているところでございますが、幸いなことに齊藤昭道副所長をはじめとして、県内の有徳、有為の人材を役職員として御推薦いただきました。齊藤師は既に宗門内において布教教化に確かな実績を積まれ、人格円満にして進取果敢の気風に富み、新しい役職においてもその力量を多いに発揮してくださるものと確信しております。

新任、再任の職員を含め八名にて十二月十一日より管内御寺院様の負託にお応えするべく、職務の精励に努めているところでございます。

就任間もなく、宗務庁にて全国宗務所長会総会が開催され十六名の所長の一人として、身の引き締まる思いで出席をして参りました。限られた時間、限られた方々とはありましたが、それぞれの宗務所の実情や課題に触れる機会に恵まれ、職責の重さをひしひしと感じるとともに、宗門興隆のために微力ながらも尽力する決意を新たにいたしましたところでございます。

本年、宗務所・禅センターは二十五周年を迎えます。先輩諸老師の御労苦により積み上げられた四半世紀の歴史の重みを感じつつ、秋田県宗務所の運営に携わってこられたすべての方々への敬意を常に忘れることなく、役職員一同、心を一つにして節目に相応しい一年にしたいと念願しておりますので、重ねて御理解と御協力を御願います次第です。

最後に管内御寺院様の御法体堅固と福寿無量ならんことを心から御祈念申し上げます。新年の御挨拶と致します。



新人所感

宗議会議員 佐々木 正悦

明けましておめでとうございませす。新春を寿ぎ皆様のご多幸をお慶び申し上げます。

昨年、皆様のご法愛ご支援を頂き、全国区へ一步を踏み出しました。まだ三ヶ月余りの僅かな期間です。正直「このステージは容易成らざる処」と感じました。全国から多士濟々、海千山千の老練な方から、権謀術数に長けた者、情熱が迸る若者、寡黙にして沈黙考の哲人。しかも北は北海道から南は九州まで、大きな地域差温度差思考の差があります。まさに様々な選良の集合体であり、それが一つ舞台で顔合わせ、話し合う(議論)のですから大変な処であります。

さて、宗務所からの原稿依頼には「宗議会議員としてのお考えを」とのことですが、かかる立候補の挨拶の際にも申し述べましたが、折角です。今一度申し上げて皆様のご理解とご支援を賜りたく存じ上げます。(ただし紙面が少ないので詳細には書けません。)

私は長年、現行選挙法の改正を訴えて参りました。現行選挙法は全く

の悪法とは言いえないかも知れませんが、神聖にして犯さざるべき両本山名を政争の具にする「系別」や人権問題に抵触するような「列記」は直ちに改正すべきだと思っております。

次に「人口減少と過疎化における寺院問題」です。宗務所長時代四年間、メインテーマとして会合研修を重ねて参りました。しかしながら、この問題は一宗務所単位で行うような小さい問題ではありません。寺院の存亡に、宗門の体制に関わる重大事案であります。喫緊に対策を講じなければなりません。他宗門では既に専任職員を配属し、専門委員会を設置しています。遅れを取ってはいけないと思います。私はこの度なせか級階査定委員に配属されました。従来は施行年度は本年度であります。国の国勢調査が終わってから行うことのようにです。議員の中には宗費値上げという声もあります。しかし、秋田県の現状を鑑みれば断固値上げする訳には参りません。県下の状況を詳らかにして値下げか現状維持を訴えて参りたいと思います。

それから多々良学園問題であります

すが、昨年六月に十億円の和解金を支払うことで終結し、第三者委員会の報告書も宗報一月号に掲載されました。現総長は多々良問題について真相究明と再発防止に全力を注ぐという見解のようですが、これだけ一件落着きなのでしょうか。報告書によれば「年二回、短期開催するだけの宗議会では、実質的に深く掘り下げた十分な審議を行うことは著しく困難であるため、議員の責任は問いただす」とあります。それでいいのでしょうか。十分な審議が出来なかつたとしても、曲がりなりにも宗議会は最高議決機関であり、約三十数億円の支出を承認決議し、宗門に甚大な損害と不祥事を招いた責任は宗議会にあります。少なくとも政治責任という何らかのケジメをつけなければ、議員への信用、宗議会への信頼を失うことになるのではないかと危惧しています。

紙面が少なくなってきました。何はともあれ、秋田県有権者諸老師の益になることを最優先に活動してまいる所存であります。が、冒頭の如くなかなか難しい処なので、皆様方のご支援に酬いられるか、また自分自身がどこまで通ずるか、まさに覚束ない足で霧の中を歩く心境であります。皆々様の叱咤と後押しを頂いて、精一杯頑張る覚悟でありますので、よろしくお願いいたします。



年頭所感

宗議会議員 深川典雄

平成二十七年の年頭に当たり、謹んで新春の慶詞を申し上げ、県内洞門老宗師並びに、ご寺族各位の萬福多幸、寺門の隆昌と安寧を心からご祈念申し上げます。

先ず始めに、昨年九月十七日執行されました任期満了による宗議会議員総選挙に当たり、浅学非才の身を顧みず四度立候補いたしましたところ、管内有権者老宗師の格別なるご法援を賜り、無投票当選という栄を賜りましたことに対し、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

昨年九月十八日、「多々良問題に関する第三者委員会」による『調査報告書』が提出され、その中で宗門内における組織改革について多くの指摘を受けたところであります。

報告書で指摘を受けた、組織改革・議会改革については、多々良学園問題が惹起した当初から、常に議論として俎上にはあったものの、抜本的改革までには至っていないのが現状であります。特にこの報告書では多々良学園に関しては、「当時の宗議会の責任は問えない」と所謂、

機能不全に陥っていた議会であったからと結論付けられたものであります。

更に、この指摘を深めれば、今まで改革の結果を見出せない宗議会の体質（宗議会の運営上の問題）が宗門改革の妨げになっていると強く指摘を受けたものと読み取ることができます。

この指摘に対する宗議会の責任は重大であると言わざるを得ないところではあります。最終決定機関である責任役員会議（庁議）の構成員の多数が宗務行政の執行者である内局員という実態を考慮しつつも、今後においては、有権者の負託を受けた大多数の議員で構成する宗議会が宗務行政に対する最大・最終のチェック機関であるという認識に立ち返り、有権者の代表として宗務行政に対し積極的に提案出来る議会運営の改革を成し遂げることが、私に課せられた命題であると強く認識するところであります。

更にまた、多々良学園問題ばかりでなく、社会情勢の変化に対応でき

ない宗門の現状を考察すれば、宗門の組織は現実に添わない制度疲労をきたしており、何よりも宗議会が、十分な情報がないまま十分な議論もすることもなく追認をするだけの議会になってしまったということが大きな問題であり、前述の、『調査報告書』において、現行の宗議会では「実質的に深く掘り下げた十分な審議を行うことは著しく困難である」と指摘されていることを踏まえ、宗議会が本来の役割を果たせなかったという反省と、議会改革をしてこなかったという反省に立ち返り、有権者に対して責任が持てるよう十分に審議を尽くすことができる議会を目指すこと、それ即ち私の使命であると、ここに、その決意の一端を披瀝させて頂くものであります。

最後に、大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六百五十回大遠忌の無事円成を冀い、本年も昨年と同様に管内老宗師の御提言を法援とし、挺身いたす所存でありますので、宜しく御慈援ご法愛を賜りますようお願い申し上げます。

追記、「多々良問題に関する第三者委員会」による『調査報告書』は、平成二十七年一月号「曹洞宗宗報」巻末に掲載されてご高覧下さい。

平成25年度 曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出剰余金処分

歳入合計	60,086,987円
歳出合計	50,469,443円
差引剰高	9,617,544円

上記剰余金を下記の通り処分する。

記

金 9,617,544円を平成26年度会計に繰り入れる。

以上

平成26年度 曹洞宗秋田県宗務所補正予算

歳入の部

(単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	現計予算額	説 明
5. 繰越金	8,889,040	728,504	9,617,544	
1. 繰越金	8,889,040	728,504	9,617,544	前年度繰越金
歳入合計	57,177,000	728,504	57,905,504	

歳出の部

項 目	当初予算額	補正予算額	現計予算額	説 明
13. 財政調整費	6,340,000	728,504	7,068,504	
5. 財政調整金	2,300,000	728,504	3,028,504	
歳出合計	57,177,000	728,504	57,905,504	

平成25年度 宗務所基本金積立会計報告

(将来の宗務所改築のための積立)

項 目	金 額	付 記
前年度繰越額	11,547,558	
一般会計繰入金	3,000,000	
雑 収	2,142	預金利息
合 計	14,549,700	

積立金 14,549,700円 次年度へ繰越

※前号に掲載すべき報告でしたが、都合により不掲載でありました。あらためてご報告いたします。

平成二十六年 曹洞宗秋田県 宗務所・禅センター設立記念集会

秋田県宗務所・禅センターの設立記念集会在、十一月七日、秋田キヤッスルホテルを会場に、住職永年勤続表彰者をはじめとして、関係各位多数の御臨席のもと盛大に開催されました。

午後五時より記念式典が行われ、宗務所を代表して庶務主事の嶋森憲雄の挨拶に続き、住職永年勤続五十年、四十年、三十年表彰を受けた諸老師の紹介と彰状の授与、寺族として長年に亘り住職を補佐してこら



住職永年勤続表彰

れ、七十歳、六十歳を迎えられた方々の紹介と彰状の授与の後、大仙市満勝寺住職、佐々木正悦宗議会議員老師より御祝辞をいただき、受彰された方々を代表して、大館市温泉寺住職、佐藤舜英老師が謝辞を述べられました。

記念式典終了後、能代市長慶寺住職、深川典雄宗議会議員老師の乾杯の発声にて、和やかな祝宴の開宴となった。



佐藤舜英老師の謝辞

表彰対象者芳名簿

住職50年表彰 (管長表彰)	第6教区	龍泉寺	佐藤	良徳老師
	第8教区	松庵寺	高橋	亮順老師
	第16教区	瑞雲寺	川越	一宏老師
	第18教区	温泉寺	佐藤	舜英老師
住職40年表彰 (管長表彰)	第2教区	自性院	筑地	宏之老師
	第13教区	宗泉寺	長谷川	恵光老師
	第13教区	眺江寺	小関川	達雄老師
	第14教区	龍泉寺	加藤	雄悦老師
住職30年表彰	第3教区	泉流寺	佐藤	道幸老師
	第5教区	永巖寺	朽木	光紹老師
	第6教区	永傳寺	武藤	直哉老師
	第9教区	長泉寺	柳川	宣史老師
	第9教区	楞嚴院	小西	玄晃老師
	第10教区	福嚴寺	栗谷	幹丈老師
	第12教区	千手院	斎藤	貫英老師
	第12教区	松連寺	市橋	晋英老師
寺族表彰	第2教区	鷲林寺	菅野	悠子様
	第3教区	高建寺	佐藤	真理子様
	第4教区	珠林寺	鮎川	和歌子様
	第8教区	龍巖寺	伊藤	玲子様
	第8教区	松庵寺	高橋	孝子様
	第8教区	種蔵院	斎藤	良子様
	第9教区	宝昌寺	新川	妙子様
	第9教区	善光寺	吉方	範子様
	第11教区	恩徳寺	岩館	倫子様



寺族の方々



佐々木正悦老師の祝辞

第13教区 雲昌寺 古仲 碩子様
第17教区 南陽院 伊藤 良子様

人権コーナー

去る平成二十六年九月一日～三日の二泊三日の日程にて、東京都曹洞宗檀信徒会館に於いて、平成二十六年年度第一回全国人権擁護推進主事研修会が行われました。

今回の内容は「四年間の総括と今後の宗門の人権啓発のあり方について」というテーマにて各宗務所人権主事の研修が行われました。

初日、開会式・日程説明の後、講演①として部落解放同盟中央本部書記長・西島藤彦氏の「原点に戻ることが重要―過去帳開示問題と宗教教団のとりくみ」という講演をいただきました。人権という問題が表面化してから現在まで様々な取り組みを行う中で日本における最大の人権侵害問題として部落解放があるわけですが、他の問題を行う中で忘れられ始めているという懸念と、その事柄に関してさらに枝分かれして別の問題なども発覚しており、今一度原点に立ち返って話し合う事が重要ということでした。その後、五人の人権主事が総括を発表して一日目の日程を終了しました。

二日目、日本アビリティーズ協会会長・早稲田大学人間学部客員教授・伊東弘泰氏による講演②をいただき、その後、疑似体験が行われました。アビリティーズ協会というのはどういう団体かと申しますと、「人間に無能力者はいない」「保障よりも働くチャンス」などをスローガンに、障害ある人の自立と社会参加を進める団体として、一九六六年四月に障害者約二〇〇名で設立した団体です。現在は福祉に関わる事業を広く展開しております。疑似体験の一つは視覚障害者、一つは高齢者、一つは車いすの三つを体験しましたが、少しの体験で深くまで計り知ることはできませんが、短い時間においても、一つのことをしようとすると時間がかかり健常者の感覚とはまったく違うということが分りました。昼食を挟んで講演③として、「障害当事者の日常体験から―気づかぬ『差別』も含めて」という演題でアビリティーズ・ケアネット(株)取締役・緒形晃氏より講演していただきました。緒形氏自身も障害者

で車いすでの生活をしている方で、自身の経験も踏まえての講演はリアリティのあるお話でした。終わって、疑似体験の残りを言い分散会へ分かれて二日目の日程を終了しました。

三日目は全体会から始まって、各班の代表が発表しすべての日程を終了しました。

最後になりますが、私が人権主事になって早くも四年が経ちました。その間様々な人権学習をさせていただきました。さらに東日本大震災という大災害が起こり新たな差別問題も生まれてまいりました。今後も新たな問題が出てくることは想像に難くないかもしれません。時代が流れても形を変えて人権問題というのは発生することでしょう。だからこそ宗教者・僧侶としてそういう問題は起こさない起こさせないという気持ちで日々過ごさなくてはいけないのだらうと思います。四年の任期を勤める事が出来たのも県内御寺院様、檀家様のおかげと感謝しております。

(人権擁護推進主事 鷹照賢裕)

合掌



聴衆のみなさま



公開講座 佐々木閑先生

禅センターだより

仏教講座

心安らぐ仏教講座

秋田市 工藤 正彦

今年の仏教講座で頂いた「修了証書」を加えると19枚目になりました。

仏教講座を受講して帰路に就くと、いつも清々しく穏やかで充足感に満ちた気持ちになります。

この充足感が毎回宗務所に通わせたいことと思います。

「ゴータマはいかにしてブツダとなったか」の著書の中で佐々木閑教授は次のように述べておられます。

『聖徳太子はあつく「三宝」を敬えとおっしゃいました。その三宝とは「仏・法・僧」であり、仏教におけるもっとも重要な三要素である。』

これは大変なことであり、多今年で19回仏教講座を受講し、多くの老師（三宝の僧）から講義を受

けることは有難いことであります。

毎回、各老師は「お釈迦様の心」を伝えようと未熟な受講生の私共に懸命に努力して頂きました。

また、若いご老師が額に汗を滲ませながらお話しくださる姿には感銘いたします。

こういう世の中ですから、真実に語り、聞くことを選択が難しい環境にあります。仏教講座では真実を安心して学ぶことができ、これが本講座の魅力であります。

サムエル・ウルマンは「青春とは心の若さである」と言っています。仏教講座では心が洗われリフレッシュされます。

これまで「慈しみ」と「利他行」など多くのことを学びました。

私ごとながら福祉施設「ケアハウス」「デイサービス」の理事としての経営方針の一つに「利用者の尊厳を守る」があります。

今後も運営にあたって、仏教の根底にある「慈しみの心」を大事にし、微力ではありますが少しでも世の役に立ちたいと念じています。

「仏教講座開設20周年」を迎えた本年度に無事講座を修了出来たことは、とても幸せなことであります。

末筆となりましたが、部長ご老師はじめ多数のご老師には、いつも心広く温かいご指導賜りましたことに感謝し、受講のお礼まで申し上げます。

追記

毎回の「野外研修」では、各お寺さんの歴史的仏教芸術を鑑賞できとても勉強になり楽しみであります。

今回は恩徳寺様で、ホカホカの特大的懐かしい「アンコの一杯詰まったおやき」をご馳走になりました。

また、長年寺様では南部を代表する名産「南部煎餅」を土産に頂きました。さすが、塩味・適度なカリッとした歯ごたえ、本場物は格別であります。

参加受講生の写真を特大にして頂き、みんなニコニコとても幸せ。ご配慮に感謝申し上げます。

心の目

秋田市 佐々木昭司

つい最近、テレビ番組で身体障害者の方々の仕事ぶりが各地で評判がよく、今や勤務先の事業所では貴重な戦力となっている事を知りました。又、ある会社で採用した全盲の女性も紹介されました。彼女の誠実な人柄を見て確か翌年だったと思いますが新入社員採用時の面接に同席させました。面接終了後、参考に彼女に意見を聞いたところ評価が極めて的確で、その見立ては入社後の今日も変わらないと上司の方も驚いておられました。全盲の女性は今では面接官として周囲の人から全幅の信頼を得ているようです。その上司は「私共健康者は第一印象つまり、容姿やマナーに目を向けてしまいが全盲の彼女は外形的なものは何も見えません。彼女は心の目で私共の見えないものを見ているのでしよう。」と話しておりました。この言葉を聞いて私は、フト宝鏡三昧の中の「夜半正明 天曉不露」の一句を思い出しました。ふだん意味も分からず又仏教書などを読んでも分かったような分からないような、要するに腑に落ちないままの気持で読んでいたの

ですが、この全盲の女性の方の話を聞いて何か少し分りかけてきたように思いました。
もちろん、こうした理解が果して理解の名に値するかどうか全く自信

野外研修

仏教講座野外研修に

参加して

秋田市

永福山禪梅院檀徒 工藤トシ子

十月二十三日秋晴れの陽をいっばい浴びて車窓から紅葉を堪能し鹿角市恩徳寺さんに到着。和尚様の出迎えあり恩徳寺さんの中へ入る。皆様とお経唱え、住職さんからのお話があり「なんと遠がったでしょう」と笑顔の優しい口調で話されたことに遠かったことなどわすれてしまいました。この花輪からは秋田は遠くむしろ弘前とか盛岡が近いこと。阿弥陀如来、三尊像様は「黒仏さん」のお寺として親しまれ中尊は病氣のとき同じ部分をさすって拝むと平癒すると親しまれている。その黒さに驚き長い年月の歴史を感じなぜだか気が引き締る。位牌堂を三世堂にする

はありません。私自身の思い込みかも知れません。先生方に教えていただいて少しでもお経を読めるようにしたいと思っています。

阿弥陀佛(過去) 釈迦牟尼佛(現在)

彌勒佛(未来)を示す。六道輪廻の世界があり天井には八角堂が檀信徒のお寺に感動。人は皆仏心を持って生まれてくるが知らずにいるから人で終る自分自身の仏心を目覚めさせてくれた時間でした。

お隣の長年寺さんへ。黄葉のイチヨウが青空に映えみごとく美しさの下を通り寺院に入る。お寺の歴史は古く一五〇二年陸奥国に創建し南部の領域であったこと。本尊様は釋迦牟尼佛様で中野南部家代々の菩提寺である、今日まで五百年の歴史を経ている。二度の火災にあうもその度本尊様は持ち出し無事であったこと。地域では夜泣きするお子様が供養に来ると、不思議と夜泣きしなくなるお寺さんと親しまれている。丁寧な説明で寺院を見させて頂き感動。帰りの際には一列に並んで見

送ってくださった和尚様達のおもてなしを感じました。仏教では「ご縁大切に」、今日お逢いできた皆様に感謝、ご先祖様があつて自分がある。おかげ様の心を忘れず、これから生きて行きたいと願った。恩徳寺さん、長年寺さん、お世話になりました。合掌

仏教講座の野外研修に

参加して

秋田市

高橋

房子

仏教講座の野外研修に参加させてもらい、いつも感嘆し仏教という宗教に自分達の先祖があることを誇りに感じています。

今回は、県北花輪の恩徳寺様と長年寺様でした。「この遠くまでよく来てくれたねえ」と心暖まるお言葉をいただき、石段の上にあります山門を見た時、そして境内を見渡した時、更に位牌堂に入った時は、堂内の四方八方の仏様、厳かに見える位牌所、それらが檀信徒のご先祖様を見守ってくれているのが十分に伝わって来ました。全て何か違うようで、別世界に居るようでした。幾多の災いをくぐりぬけ、源平合戦由来の阿弥陀如来三尊像が現存。又、戊

辰戦争戦死者のお墓がある等からして、県北の花輪という土地柄が私を驚かせてくれたのだと思います。

お隣の長年寺様の境内にありますイチョウの木、あまりの大木にびっくりしました。真黄色に今が見頃と太陽に照らされパツと明るかったのには、皆、凄い、素晴らしいの一言でした。どつしりと地にありお寺さんも地域に溶けこんでいるように思えました。

建立以来一度も火災に遭うことなく古くからの仏像仏具が現存されていますとの事、うれしい限りです。般若心経をお唱えさせてもらっている時は仏教研修に来ているのだなとつくづく有難く感じております。

年齢を重ねても、おやつ時間は嬉しいもので、心暖まる地元のお菓子をなつかしく戴きました。そして、文章には表し尽くせない沢山のおもてなしを戴きました。特に両ご住職様の笑顔が、つくらなくても内面から出る柔和な笑顔がとても印象に残っております。

引率して下さいました方々、終始気を使ってくれてお疲れになった事と思います。今日はとても良き日を過ごせましたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

公開講座

仏教の魅力を再確認

18 教区 佐藤 善廣

今年度公開講座の講師が佐々木閑先生と聞いた時より、最優先で日にちをあけて待っていました。多少大袈裟ですが、偽りのない事実です。久しぶりに書店でタイトル買いをしたのが、佐々木先生の『科学するブツダ』でした。非常におもしろかったので、著者買いに走ろうとした矢先に公開講座のお話を耳にしました。これもご縁と予備知識を入れずに、ただただ楽しみに待つという前述の状況が生まれたわけです。

仏教の魅力を限られた時間で楽しく、わかりやすく講義いただきました。仏教誕生にいたる経緯など知識としての講義も世界史の授業のように、ちよつと学生気分を味わいました。その後は「仏教的に生きるということ」という演題に納得の、自覚と実践に根ざした熱量の高い講義でした。

ブツダは医者。とても優秀な医者。仏教は処方。人間の根本的な病に対する最高の処方。お寺は病院。

必要な人には常に開かれていることが重要。健康な人まで引きずって練る必要はなく、看板を高く掲げ門戸を開いておく。「悟り」など難しく

考える必要はなく、自分は老病死の苦しみを抱いた患者であると自覚することが第一歩。病院も処方も先生もそこにある。「修行」とは治療であり、トレーニング。健康になること、健康でいること、死ぬまで終わることはない。すんなりと腑に落ちる見事な流れに、お釈迦様在世のうちに話を聞いて出家する方々の気持ちかわかる気がします。誕生偈の疑念も晴れました。

サンガや律についてのお話など、もっとももっと聞いてみたいことがあります。著書に親しみながら次の機会を待つことにいたします。

公開仏教講座に参加して

松庵寺 副住職 渡邊 英心

花園大学教授の佐々木閑先生をお招きし、布教部主催仏教講座が開かれました。演題は「仏教的に生きるということ」とされ、お釈迦様がお

生まれになった頃の事情と、仏教誕生の経緯を解説された上で、原始仏教の生死観や世界観が、実は現代にこそ価値観が一致し、活きる、というお話でありました。

お話によると、仏教誕生以前に、インドでバラモン教の神とされていたブラフマン（梵天）と、それが作り出すカースト制度という身分差別を否定することが出発点であった仏教は、キリスト教などの一神教とは性格がはっきりと違い、世の中の構成は神のような超越的な力に拠ってではなく、すべて縁起によって成り立つと考えるのが特徴であるとされます。その上でお釈迦さまは、この世に生まれた人間は平等に老、病、死の苦しみの中に生きなければならず、「一切皆苦」であると説かれました。人間はそれらの苦しみから逃れることができないので、それを苦しみと捉える「私」を変えること、つまり「我」の領域を縮めようとする

ことが仏教者としての修行である、ということです。元々仏教という考え方は、お釈迦さまが自身の苦しみを消すための自己救済のためのものでしたが、お悟り以降、迷える人々のために教えを説こうという、慈悲の宗教へと転換します。この自利と利他の組み合わせが仏教の特徴であ

るようです。そして先生は、仏教は病院のようなどころであるべきだと話されました。仏教の一切皆苦の立場では、積極的な布教活動をするというよりも、苦しみを感じていない人々はそつと見守り、苦しみを持つ人がいたら受け入れ、適切な生き方を提示するのが僧侶の役割であるということ。そこで、病の治療法を熟知した医師が患者に適切な処置を施せるように、我々僧侶は、修行により自身が導きだした「正しい生き方」を苦しむ人々に示すことが求められるのです。

我々が日常で「苦しむ人」と出会う機会として一番身近なのは、ご葬儀やご法事でしょう。大切な方を亡くされたご遺族とお話をする際に、自分の生き方を通して、彼らに苦しみの少ない生き方を示せるよう、仏教者としての日々の修行を疎かにしてはいけないと思いました。



「やすらぎの心」

秋田県 梅林寺住職 木村 高寛

東日本大震災からこの三月で四年目を迎えます。昨年、御縁を頂き仙台、松嶋、石巻、女川と布教巡回致しました。

その折、出逢った被災者の言葉です。

「本気で泣いたらナー。本気で泣いたら一歩踏み出せるんだが。」まだ、家族が行方不明の方です。

言葉を聴いて、禅師様の被災者への思いが伝わってきました。

「東日本大震災 物故者一周忌 慰霊法要」での御垂示です。

『震災からずっと皆さま（被災者）の苦しみ、悲しみに同じくしようと願っていたが及ばず、それが自分の一番の苦しみにあった。』

—中略—

私たちが正しくみ仏の道を歩むとき、亡き人も、仏として現れる。故人のためにも、前を向いて生きていただきたい。』と、延べられました。

禅師様の思いを、確りと受け止め、忘れず共に寄り添って歩いて行くことが仏様の道「やすらぎの心」へ繋がっているのだと信じながら布教巡回をさせて頂きました。

一八二八年十一月の越後地震の時、良寛様が山田杜草とくろさん宛

てに送った地震見舞いの手紙です。

『災難に逢う時節には 災難に逢うがよく候。死ぬる時節には 死ぬがよく候。』

これはこれ 災難をのがるる妙法にて候。』

「毎日を心配や不安に怯おそえて生きる事ではなく、地震がくる時は起こるにまかせ、神仏がお迎えにくる時は、おまかせして感謝して行こう。それまでは「今」をしっかりと生きる事。それが、幸せへの第一歩。」とお示しにされました。

しかし、良寛様の言葉通りに被災された方は受け取ることが出来るでしょうか？ 災難に遇いたくないから苦勞する。死ぬのが怖いから不安に思う。また、実際に災難にあつたら、悲しみや悔しい気持ちを持つのが人の心情というものです。

仏教の世界では、これは苦勞な事。あれは楽しい事。また、生と死を区別し、これは悲しい事。これは喜ばしい事と区別してはいません。

この世の中で起こる全ての事は、本来色の無い、無色透明であつて、善でも無く悪でも無い、と言います。

自分に発生した事をそのまま受け容れて、避けよう逃れようとせずに対処すれば良いと良寛様はさとされているのです。

先にも述べましたが、「教え」として理解できても、今回の東日本大震災で被災された方々にはお伝え出来ない思いでした。

しかし、次の言葉と出会って大きな衝撃を受けました。宮城県気仙沼市階上中学校の卒業式での梶原裕太君の答辞です。

「自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私達から大切なものを容赦なく奪っていきましました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。」

何度も嗚咽をこらえ切れず読み上げる梶原君の姿。テレビから流れるこの映像を見て、涙がこぼれ落ちました。震災は命を奪い、生活を奪い、家族を奪っていきましました。泣いても泣いても泣き足りない悲しみを多くの人々が経験しました。

更に、梶原裕太君の言葉は続きます。
「しかし、生かされた者として、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助けあって生きて行くことがこれからの私達の使命です。」

深い悲しみや絶望の中にあつてなお「天を恨まず、運命に耐え、助けあって生きて行く」と込み上げる涙をこらえて訴えているのです。

また、今回の大震災では130名以上の両親を亡くされた震災孤児の方々がいます。

高校一年生の女子学生です。家族全員が亡くなられました。火葬を終え、お骨を一人で、二つも三つも抱えていく、小さな後ろ姿を見送る時、皆もつらくなります。

「悲しいけれど、発見されないよりはいいかな。今、生きて自分の存在が、誰かの力になれば良い。」

そして、女子高生は、「助けて、支えてくれるのは、有難いけど、自分の力で生きて行こうと思います。この光景がまだ、信じられないし、受け入れられない自分もいます。頑張っつて前へ進むことが、生かされた私達の責任だと思っています。朝、目が覚めると今日も生かされている。と思うようになりました」と。

この子達は、悲しみのどん底を見たのだな、と思いました。悲しみのどん底を知った人は、本当の幸せを知ることが出来る

のです。

そして、この子達だけが良寛様の言葉を受け入れることが出来るのかもしれない。

仏様はどんな境遇にあつたとしても、感謝のある所には、必ず日を照らしてくれるのだと思ひました。そして、「子どもの笑顔を守ろう」と私は心に誓ひました。

仏様の『やすらぎ』の世界とは、良寛様のお言葉の意味とは、苦も楽も、生も死も、悲しみもお喜びも、感謝（合掌）の気持ちで受け入れることが出来る人の心に生れてきます。

その悲しみの向こうにある貴いものに出逢つた人は、他の人の心をも安らかにしてくれるということをして二人は、私に教えてくれました。

震災直後、しばらくの間テレビからはコマーシャルが消え、次の言葉がなされました。

心は見えないけれど 心づかいは見える

思いは見えないけれど 思いやりは見える

やさしい思いが やさしい行為となつたとき

心は始めて生きる

心が生きることだ 人間が生きることだ

『行為の意味』宮澤章二

重い言葉です。震災は命を奪い、生活を奪い、家族を奪っていきましました。心のより所であるご仏壇もお位牌も、一枚の写真も。

私は、一仏両祖のカードを作成し「あなたのお守り・向きあう、伝える、支えあう。」と記し、被災者の方々へ聴聞ボランティアの折、お渡ししました。

良寛様の言葉は、まっすぐ届くだろうか、仏様の教えを伝えることができるだろうか、と自問自答しながら。

妄言風発



この紙面は皆様の思惑を掲載するフリーペー
ジです

— 十八教区の皆さまの声 —

「眼横鼻直」 がんのうびちよく

浄運寺副住 黒滝 隆謙

去年の十一月に、秋田県第十八教

クラウゼヴィッツ

玉林寺住職 桑名 秀明

「戦争論」を著したフォン・クラウゼヴィッツは、少尉に任官して間もなく、プロイセンがナポレオンに敗れたためにフランス軍の捕虜になりました。

自他共に認める欧州屈指の陸軍国であったプロイセンが簡単に敗北したことに吃驚した彼は、その敗因を熟考し、軍の上層部が精強の名声の

区護持会の研修旅行に参加させていただき、旅行の二日目に、宗務所の禅センターで花園大学教授の佐々木閑先生の講演を拝聴しました。その中で、先生は「仏教の目標の一つは自我を捨てる事だ、自我を抑える、捨てるのがしあわせに生きる為の近道だ」という事をおっしゃっていました。その時にふっと「眼横鼻直」という言葉が私の頭に浮かんできました。この言葉は道元禪師が若いころに、今の中国の天童寺の如浄禪師の元で五年におよぶ修行をされて体得されたことをお示しになった言葉の一つです。それは道元禪師が学んできた仏法は特別なものではない。あたりまえのものをあたりまえに見る。このことは簡単なようで厳しい

重みのあることだと思えます。一休禪師に面白い話があります。ある日、一休さんは一本の曲がりくねった松の鉢植を、人の見える家の前に置いた。「この松をまつすぐ見えた人には褒美をあげます」と、小さな立て札を鉢植に懸けたのである。いつの間にか、その鉢植の前に人がきげできた。誰もが曲つた松と立札を見て、まつすぐ見えないかと思案した。だが誰一人として、松の木をまつすぐ見ることはできなかった。暮れがた、一人の旅人が通りかかった。その鉢植を見て、「この松は本当によく曲りくねっている」と、さらに一言。それを聞いた一休さん、家から飛び出てきて、その旅人に褒美をあげたという。その旅人だけが松

の木をありのままに見たのである。他の人は一休さんの言葉に惑わされてしまった。褒美に目が眩み、無理に松の木をまつすぐ見ようとしたのである。さあ、どうでしょうか。私達は「眼横鼻直」のように、あるがままに受け入れているのでしょうか。他人の意見、自分の主義主張にとらわれて、本当の姿を見失っている事があるのではないでしょうか。私達の社会は、人々の自我を抑えた行動のお陰で出来上がっています。服にしても、電気にしても、食べ物にしても、家にしても、ゴミを運んでもらうにしても、全ての事は、人様が自分の自我を抑えてして下さった事で成り立っているのです。

上に胡坐をかいて思的に動脈硬化をおこしていたこと、つまり伝統に捉われてナポレオンの新戦術に対応しきれなかったことに気づきました。更に、当時の軍人が専門分野ばかりを学んだために教養を欠き、思考範囲が狭小となって柔軟性に乏しくなったとも結論づけました（これは日本陸軍も同様です）。

それで彼は、後年陸軍大学の校長に就任すると、学生に対して偏った知識の吸収を戒めると共に、様々な職種の間と交流し、種々の本を読

勉強をすることができます。歴史、文化、仏教のことなどを質問されても答えられなかったり、戒名の字を読めない坊さんを在家の人達は如何思うでしょうか。確かに法式を学ぶことも重要ですが、併せて僧侶として、そして一人の社会人として持つべき知識、教養を身に着けることも重要だと思いません。若い方々にはぜひ社会にでてでも恥ずかしくない知識と教養を身に付けていただきたいと思います。 合掌

雪中の名俳優

実相寺副住 大佐賀正信

この原稿の下書きをしている時点で、積雪は去年の予想を大きく上回っています。発行される頃には今季の積雪記録に驚いているのでしょうか。想像すると寒気が増します。さて、年末になるとその年に亡くなった著名人の追悼特集がテレビなどで組まれますが、二〇一四年は昭和の映画スターの相次ぐ訃報が話題になりました。

梅花講を始めて

長興寺副住 伊澤 大雄

教区のあるお寺様から何度か御詠歌のお誘いを受けていたのですが無知が故に快い返事をする事が出来なideいました。そのような折、長興寺で特派梅花の会場を提供することとなり、当時は梅花講がありませんでしたので、お檀家さんに声をかけ参加して頂きました。その後、興味のある方々から御詠歌をお唱えしてみたいという声がありました。その年、丁度よく秋田市に梅花流師範養成所設立という封書が届き、

十一月十日に高倉健さんが亡くなりました。八十歳を越えても尚まっすくと背筋を張った立ち姿をしてらっしゃったので、影で厳しい病と闘っていたとは誰もが思わなかったでしょう。私自身がリアルタイムに観た作品は「不器用ですから」のセリフと共にイメージされる寡黙で精悍な健さん（皆に認められた映画俳優の敬称として「健さん」と記します）ですが、強烈に惹かれたのは数々のアウトローを演じていた若き頃の作品でした。

大雪に見舞われた年末年始でした

一期生となりました。お檀家さんには一年半待っていただき、平成二十四年の九月に長興寺梅花講を十一人の講師さんで始めました。一月月に一回お寺に集まって頂き二時間程度の講習を行っています。私も御詠歌を始めて間もないので講師の皆さんにお教えしながら、勉強させて頂いています。

人からものを教わる経験しかない私にとって、養成所で教えて頂いたことを伝えるということは容易ではありませんでした。私が理解していることを噛み砕いて、わかりやすく、伝えて行くことがどれだけ難しいのかを思い知らされました。教わ

が、銀幕の健さんの姿を思いだすと、冬の景色の中にいることに気づきます。例えば冬の駅のホームにたずむ後ろ姿、雪が舞い散る中に唐笠をさして登場、網走の大雪原を駆ける、極寒の八甲田を行軍、ついには南極大陸へと挑む。名シーンと呼ばれる作品群に、これだけ雪のイメージが多い俳優が他にいますでしょうか？

ふと手に取った語録の一節が、彼の魅力の秘密を説いてくれたような気がしました。

紅炉こうろ上じょう一点雪いちてんゆき赤々と燃える炉の

ることと教えることの違い、師範の先生方の偉大さに気づき、自分の未熟さを痛感しました。

長興寺梅花講が三年目の年に、住職が兼務している宝泉寺のお涅槃会で御詠歌を披露したところ、宝泉寺のお檀家さんもお唱えしてみたいという事で去年の六月から宝泉寺梅花講を開講することになりました。御詠歌には人の心に訴えかける力があるのだと改めて驚かされました。

お檀家さんからお唱えをしたいからと始めた御詠歌ですが、今後は梅花講を通じて、供養のためだけのお寺ではなく、楽しみながらお寺に来られるような場を提供出来るよう

上空、ひとかけらの雪が降りてくると、落ちる間も無く一瞬で溶け消えるさまをよんだ禅語です。「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」と、座右の銘を遺して、デビュー以来の凛とした姿のまま颯爽と旅立って行った健さん。たとえどんなに雪深い中においても、はかり知れない熱量を画面に焼き付ける存在感。極寒の撮影を耐えた心境はどのようなものだったのでしょうか。

に、また講師さん一人ひとりの目線に立ってお教えることが出来るように、私自身精進してまいりたいと思います。



お袈裟の功德に導かれて

全應寺住職 佐藤 宗明

永平寺の山門に立つた時からちょうど十年になります。あっとい間という気もしますが、いろいろな出来事があった十年でした。

永平寺安居中にお袈裟を縫う縁に恵まれ、晋山式には是非自分で縫い上げたお袈裟を掛けて臨むと発願しました。弊師仁鳳の遷化の一年ほど前に師匠の使い古したお袈裟三層を解いて衣材として使うことの許しを貰い準備を始めました。十五条のお袈裟の把針は気の遠くなるような作

愚者の「夢」

観音寺住職 小林 泰成

訳も分らないままに得度をし、言われるがままに立職をし、何もしないままに大学を途中で去りながら、それでも何となく僧堂生活をして、何となく嗣法を受け、更に生命を受けたところで、漸く事の重大さを天地が回るほど全身で感じ、身内や友人からは、「寺に生まれて良かったな」とか、「良い時期に住職になったな」などと慰められる、このよう

業でした。それでも不思議なものでお袈裟を縫い始めるとちゃんと縫い上がるんです。

「袈裟の神力は不思議なり、能く菩提の行を修植せしむ。

道芽増長することば春の苗の如く、

菩提の妙果は秋の実に類た

り」

(正法眼蔵「袈裟功德」より) まさにお袈裟の功德に導かれていたように思います。

「おほよそしるべし、袈裟はこれ諸仏の恭敬帰依しますところなり。仏身なり、仏心なり。解脱服と称し、福田衣と称し、無相衣と称

な愚者を、一人の僧として認めてくださる曹洞宗の慈悲深さ、住職として迎えてくださった懐の深い檀信徒の皆様に対して、何を以て恩返しをしたらいいのかが。

宗義を伝え、地域の皆様に貢献できる能力がないならば、せめて後任に余計な尻拭いをさせない、檀信徒不在の宗教活動には決してならぬ、先住が築いた敷居の低い雰囲気を残したまま退くことが、拙僧の能力で出来る精一杯の報恩でございます。住職として過ごしたこれまでの十

じ、無上衣と称し、忍辱衣と称し、如来衣と称し、大慈大悲衣と称し、勝幡衣と称し、阿耨多羅三藐三菩提衣と称す。まさにかくのごとく受持頂戴すべし。」

(正法眼蔵「袈裟功德」より)

師匠のお袈裟から得た衣材を使ったことは、それだけで無上のありがたいお袈裟が私にとつてさらに意義深いお袈裟となりました。これからも師匠の教えとお袈裟を頂戴奉持し、日々精進して参りたいと思います。

ぜひ多くの方がお袈裟を把針され、お袈裟の功德を身近に感じられることを祈念して結びとします。

六年の間に、たった一度だけ、「またここに戻って来たい」と言ってくださった参詣者の言葉を、退董するまでもつ一度聞きたい、というのが愚者の「夢」でございます。

この大それた夢、自然減少が進むばかりの当地に、爪の先ぐらいの地域貢献にはなるでしょうか。足を引っ張ることにだけはならないように、恩返しとしてつとめて参ります。

今年一年、皆々様の山門興隆、法体堅固を祈念申し上げます。

宗務所布教師養成講座受講生募集

期日 年二回予定 (春と冬)
対象 布教師を目指し研鑽を積みみたい方や日常の檀務等で布教教化の一つとしての法話について学びたい方を対象とする。

詳細は、後日通知いたします。

曹洞宗秋田県梅花流指導者養成所 募集予告

【カリキュラム・回数・期間】年10回の2年間となります

- 『初級コース』 5級師範・5級詠範の取得
- 『上級コース』 4級師範・4級詠範の取得
- 『研修部コース』 4級師範・4級詠範以上の方で、3級以上の取得

詳細が決まりましたら全寺院様にご案内申し上げます。たくさんの参加をお待ちしております。

それでも脱原発を

温泉寺住職 佐藤 舜英

今年は乙未年、羊の年に相応しい穏やかな年でありますよう念じ乍ら三朝の祈禱をしましたが、豪雪とテロ事件の報道の中新年を迎えました。

昨年も集中豪雨による水害や土石流、御嶽山噴火等自然災害で多くの犠牲者が出ました。誠に痛ましい限りで、心からお悔やみを申し上げる次第です。

近年は自然災害もその規模や頻度が次第に増大しつつあるように思われます。比較的災害の少ない当地とて、油断は禁物、常に最低限のライン、避難場所等周りの人達と相談しておくことが肝要。

あの東日本大震災から早くも三年十ヶ月、今だにその復旧は遅々として進まず、被災地の方々の苦悩の程が偲ばれます。それでも復興の目途がつく地域は暗夜に小さな灯を見つめることができまじょうが、福島原発事故による被災地の荒廃した映像や、分散された家族、仮設住宅からの声を聞くにつけ、その苦悩や放射能の恐怖感は計り知れません。

山積された除染後の表土や汚染水

の中・貯蔵施設も他に引き受け手がなく、結局、被災地の二町ではそのままやむなく引き受けることになったとのこと。

核の使用済燃料棒の最終処理となると世界の原発保有各国でも未解決と聞く。北欧の某国では地下数百メートルの地下に密閉された容器に入れて貯蔵するという報道があったが、絶対安全といえるかどうか。

諸法無我の例えに引用される慈円僧正の歌に

「ひきよせて結べば草の庵にて
解ければもとの野原なりけり」

とあります。利便性や快適さを追求する科学を決して否定するものではありませんが「解ければもとの野原なりけり」のように役目を終えたら安全に自然に還るものであってほしい。

一度事故が起ると、その復旧には気が遠くなるような時間と、解決不可能と思われるような難題が発生し恐怖と背中合せの原発に支えられて今の便利な生活があることに気付かされた訳ではありませんが、たとえ多少の不便さや忍耐を経ても、脱原発をめざすべきと思うこと頻りです。

考え事

森昌寺副住 黒澤 良允

昨年も様々な事柄、事件が世間を騒がせました。現代社会の抱える問題や課題について考えさせられることが、年々多くなっているように感じます。例えば「コンビニ」などの土下座の強要。数年前にある映画やドラマで流行したようですが、現実には土下座を強要し、はたまた不特定多数の人間が閲覧する動画投稿サイトにこれ見よがしに動画をアップロードする。挙げ句の果ては強要罪で逮捕される。住所氏名までも他のネットユーザーによってさらされる（これはこれで別の問題、犯罪ですが）。

以前、高校で生徒指導を担当していたもので、何とも歯がゆいといいますか、教育や社会、家庭内での指導や心配りで事前に防ぐことが出来なかったのかと感じます。

「お客様は神様です。」と歌にも歌われていますが、これはあくまで売り手側の論理ではないでしょうか。買い手側が「金を払っている以上、客の言うことを聞け。私は神様だ。」というのはなんとも拝金主義的で俯に落ちない印象を持ちます。

昨今、檀務においても、布施を払う

んだから和尚は施主の言いつ通りにやってくれといった内容の言動をぶつけられることがあります。そのような場合は一つずつ説明をし、宗教儀礼であることを納得していただくよう努力をしています。なんだか複雑な気持ちになります。そもそも歴史を紐解いてみても、自ら神と名乗った人々の後日談は「？」となるケースが多いと思います。

現代社会はとても便利になり、私たちもその恩恵を受けて生活しています。その分、以前は無かった、表面化しなかった問題が次々と起こっています。その問題にどのように取り組み、対処していくのかを常に考え、日々の修行を続けていくのが大切なことではないかと思っています。お釈迦様は道教経の中で「服すと服せざるとは医の咎に非ず」とおっしゃっています。自信を持ってそう言えるためにも「良医の病を知つて薬」を説けるように日々精進なんだな、と拙僧改めて思い知らされたところで、まさに『妄言』、風発の筆を置きたいと思えます。なんともまとまりのない内容でしたがご容赦下さい。

- ◆ 保護司表彰紹介
 - 法務大臣表彰
 - 松井 直行 (鹿角保護区)
 - 全国保護司連盟理事長表彰
 - 佐々木征満 (能代保護区)
 - 藤原 徳義 (大館保護区)
 - 東北地方更生保護委員会委員長表彰
 - 本間 雅憲 (秋田保護区)
 - 伊藤 道人 (大曲保護区)
 - 東北地方保護司連盟会長表彰
 - 亀谷 隆道 (北秋田保護区)
- 秋田保護観察所長表彰
 - 高田 秀法 (鹿角保護区)
 - 高橋 一浩 (横手保護区)
- 秋田県保護司会連合会長表彰
 - 齋藤 昭道 (角館保護区)
 - 久米 弘道 (湯沢保護区)
- 秋田県知事感謝状
 - 村山 正顕 (本荘保護区)
 - 宮本 康博 (本荘保護区)
 - 山田 真竜 (本荘保護区)

トピックス

忙しい日々の中で

宝田寺副住 齊藤 陽一

新年明けましておめでとうございます。今年も寒波がたくさん来て、寒くて雪の多い冬となっています。それでも私の働いている秋田市はそこまで雪は多く無いですが、師寮寺のある大館市比内ではたくさんの雪が積もっています。皆様雪寄せお疲れ様です。

今年はそんな冬の事では無く真逆の夏のお話を少しさせて頂きます。

皆様は夏と言えば何を思い出しますか？ かき氷・スイカ・浴衣・蚊取り線香様々あるとは思いますが、私は竿燈祭りです。と言うのも私自身が差し手として下着町竿燈会という町内から参加しているからです。竿燈祭りは国重要無形民俗文化財とされ、毎年8月3日～6日まで4日間行われております。真夏の病魔や邪気を払うねぶり流し行事として宝暦年間にはその原型となるものが出来ていたとされており、みそぎ・五穀豊穰などを願う現在の竿燈の形が徐々に出来あがっていったとされています。うちの町内では6月から練習が始まり、7月はほぼ毎日夜遅くまで練習しており、この時期は私にとって体の痛さと眠気と戦う大変な時期となります。大若となると長さ12尺重さ50kg程にもなるので、体にムチ打って頑張っています。夜、演技で観光客の皆様に見て頂くのは勿論4日～6日のお昼に行われる妙技会というのにも出場しています。妙技会というのは、直径6mの円の中でいかに動かないように手技や額・肩・腰で演技する訳ですが、ただ動かなければいい訳では無く、技の形等審査項目は色々あり、高得点を出し優勝出来る様日々やっております。なので、この冬のオフシーズンも筋トレ等をして極力筋肉を落とさないようにしなければなりません。

毎日何かと忙しいですが、これからも仕事と両立させて頑張っていきたいと思えます。

まだまだ寒い冬、頑張っ乗り越えましょう。

布教師養成所 入所者募集

平成27年度の布教師養成所入所者を募集いたします。

一 期 日 一

- 第1期 平成27年6月1日(月)～6月5日(金)
- 第2期 平成27年10月5日(月)～10月9日(金)
- 第3期 平成28年2月15日(月)～2月19日(金)

一 会 場 一

曹洞宗宗務庁 5階 研修道場

一 受講資格 一

年齢65歳未満で令命2等布教師以上の布教師等級を有する者

一 留意点 一

檀務や私用での遅刻・早退・欠席・外出はできません。
総定員70名のため、入所できない場合があります。

一 申し込み方法 一

曹洞宗秋田県宗務所に電話またはファックスでお知らせください。

T E L (018)868-6871

F A X (018)868-6872

一 申し込み締切り 一

平成27年2月末日 (厳守)

宗務所だより



新任の宗務所役職員

新任の宗務所役職員

- 所長 越 姓 玄 悦 (大館市 源守院住職)
- 副所長 斎 藤 昭 道 (仙北市 玉林寺住職)
- 教化主事 國 安 大 智 (横手市 香最寺住職)
- 庶務主事 袴 田 俊 英 (藤里町 月宗寺住職)
- 梅花主事 鷹 照 賢 裕 (由利本荘市 萬福寺住職)
- 人権擁護推進主事 佐 藤 徳 祐 (男鹿市 清松寺住職)
- 書記 明 石 浩 延 (秋田市 鬮信寺副住職)
- 書記 佐 藤 善 廣 (大館市 本宮寺住職)

曹洞宗秋田県宗務所役職員の退任

- 所長 佐々木 正悦 老師 (在任期間八年)
 - 庶務主事 嶋 森 憲 雄 老師 (在任期間十六年)
 - 書記 田 中 裕 憲 老師 (在任期間八年)
- 県内御寺院のため、宗門のため長年に亘り御尽瘁いただきましたまして本当に有難うございました。心より感謝申し上げます。

平成26年度 山門法要

日程	教区	寺院名	法要
4月15日(火)～16日(水)	第3教区	大泉寺	本葬
4月24日(木)～25日(金)	第18教区	宝田寺	本葬
6月7日(土)～8日(日)	第4教区	光禪寺	本葬・晋結
6月14日(土)	第16教区	西法寺	再会
6月21日(土)～22日(日)	第1教区	寶袋院	晋結
6月22日(日)～23日(月)	第1教区	補陀寺	再会
9月20日(土)～21日(日)	第14教区	高昌寺	晋結
10月4日(土)～5日(日)	第1教区	蒼龍寺	晋結
10月4日(土)～5日(日)	第11教区	圓通寺	結制
10月8日(水)～9日(木)	第11教区	長福寺	本葬・晋結
10月18日(土)～19日(日)	第18教区	天昌寺	本葬
10月18日(土)～19日(日)	第1教区	嶺梅院	本葬
11月1日(土)～2日(日)	第2教区	東傳寺	晋結
11月19日(水)～20日(木)	第18教区	源守院	本葬
11月25日(火)～26日(水)	第1教区	妙覚寺	本葬
12月8日(月)～9日(火)	第1教区	白馬寺	本葬
12月8日(月)～9日(火)	第6教区	黄龍寺	本葬



退任の宗務所役職員

- 平成二十六年九月以降
- ◎梅花流指導者養成所(初級者コース) 九月二日
- ◎梅花流講習会 九月四日
- ◎梅花流指導者養成所(上級者コース) 九月五日
- ◎檀信徒本山研修会 九月八日～十一日
- ◎写経会・仏教講座② 九月十二日
- 「心を分かち合う」
- 宝珠寺住職 岩館裕章老師
- ◎宗務所長杯野球大会 九月十八日

- ◎梅花流検定会 (県北地区) 九月二十六日 大館市北秋くらぶ
- ◎研修部第一回講座 九月二十九日 「中世の語録をよむ」 駒澤大学教授 飯塚大展老師
- ◎梅花流指導者養成所 (初級者コース) 九月三十日
- ◎梅花流講習会 十月三日
- ◎梅花流指導者養成所 (上級者コース) 十月七日
- ◎寺族宗務所集會 十月十七日 「寺族中央集會報告」
- ◎仏教講座・野外研修 十月二十三日 鹿角市恩徳寺、長年寺参拝
- ◎東北管区教化センター 教化活動推進委員会 十月二十八日 仙台市
- ◎禅センター設立集會 十一月四日 秋田キャッスルホテル
- ◎梅花流指導者養成所 (初級者コース) 十一月五日

- ◎梅花流講習會 十一月七日
- ◎布教協議会・研修部第二回講座 (併催) 十一月十日 「人が減りゆく地域で、誰に仏教を伝えればいいのか?」地方寺院の生きる道」 未来の住職塾パートナー (株)寺院デザイン代表取締役 薄井秀夫氏
- ◎梅花流指導者養成所 (上級者コース) 十一月十一日
- ◎梅花検定会 (中央・県南) 十一月十四日 あきた温泉「さとみ」
- ◎仏教講座・公開講座 十一月十四日 「仏教的に生きるということ」 花園大学教授 佐々木閑先生
- ◎臨時所會 十二月二日
- ◎梅花流講習會 十二月五日
- ◎写経会・仏教講座③ 十二月八日 「受け継ぐ」 光岸寺住職 佐藤道彦老師 「あなたの心に寄り添う」 洞雲寺住職 柴田康裕老師

◎梅花流指導者養成所 (初級者・上級者合同) 十二月十日

訃報

◎元秋田県宗務所所長

秋田市土崎、嶺梅院十五世三浦昭一老師が昨年九月十五日八十五歳で御遷化された。老師は昭和五十九年に教化主事として入所され、庶務主事の時に念願であった宗務所建設の重責を担われ、平成六年からの四年間所長を務められた。老師の多大なる功績に感謝を申し上げ心よりご冥福を申し上げます。

◎元秋田県宗務所所長

妙覚寺三十五世・桂源寺四世沼山龍晃老師が昨年九月二十二日八十六歳で御遷化された。老師は昭和五十三年宗務所副所長として入所され、率先して永平寺二祖国師七百回忌大遠忌団参事業を無事に終えられた。昭和五十五年からは所長に就任され、宗務所行政に多大なる功績を残されました。心よりご冥福を申し上げます。

退任にあたって

感謝の思い出

前庶務主事 常光寺 嶋森 憲雄

昨年の十二月九日を以て宗務所の任務を無事終えることが出来ましたのは偏に所会議員老師、宗務所役職員の皆さん、県内寺院の皆さまのご指導・ご鞭撻の賜と誠に感謝申し上げます。

思い起こせば平成十年亀谷健樹老師が宗務所長の時に宗務所勤務の拝命をいただき、四期にわたり努めさせていただきました。歴代の所長老師には大変お世話になり、数々のご指導を賜り本当に有り難うございました。役職は書記を二期、人権主事、庶務主事を務めさせていただきました色々な事を体験させていただき常に勉強の毎日ではなかったかと思えます。

宗務所の任務の中には『宗務所・禅センター』の名称の如く『宗務所（書類事務及び事務一般）』『禅センター（宗務所活動を通しての教化布教活動）』とがあり、宗務所の中にはこの二つの全く違ったものが同居するところだと考えます。この二つは車でいえば右左の車輪のようなものであり、ハンドルを操作するのは宗務所長老師であると思えます。私はこの16年間を通して最初の書記は書類事務、禅センター書記・人権主事は宗務所活動を通しての教化活動、庶務主事は本庁への書類伝達・庶務全般と布教教化活動・書類事務関係と両方の立場を体験させていただきました。本当に勉強になりました。この両輪のバランスが本

にむずかしいと思えました。

また、宗務所行政には、川の水の如く常に流れていてその流れが留まることなく、時代に沿った事務活動・布教教化活動が不可欠なのではないでしょうか。その流れの一部を担うことが出来、大変うれしく思います。

今後、自坊にて檀信徒の皆さんに布教する為に本場に貴重な事を学んだ宗務所勤務でした。

この間に学んだ事を大事にして檀信徒化導に専任していきたいと思えます。永い間、すばらしい勉強する期間を与えていただき誠に有り難うございました。

今後とも宗務所勤務時代と同様にご指導・ご鞭撻を伏してお願ひ申し上げます。 合掌

二期八年を振り返り

前書記 西来院 田中 裕憲

昨年十二月十日をもちまして秋田県宗務所をお暇させていただきました。平成十八年から二期八年にわたり書記として宗務行政にたずさわり、県内寺院の皆様が沢山の温かい御言葉を頂戴致しました。幾たびか遭遇した公私に渡り辛い時期を乗り越え無事任期を満了できましたこと、皆様の温かい御言葉と応援の御陰様でございます。ありがとうございました。

清水忠道老師・佐々木正悦老師を筆頭とした所員の皆さん。至らない拙僧を支えてくれて本当にありがとうございました。

振り返りますと最初の四年間は本庁進達書類の処理を行うにあたり宗制や宗務所条例などを学ぶ毎日でした。とくに就任致しました平成十八年はちょうど級階査定の年で、就任一日から机の上には山積みになされた財産処分等の申請書類と格闘の毎日だったことを思い出します。宗制を覚えることと書類を処理することが同時進行だった為、チエックが甘く大勢の方々に迷惑をおかけしたことを今更ながら恥ずかしく思います。

二期目に入ると今度は禅センター書記として、禅センター三部門の行事に四年間参画させていただきました。ご存知のとおり禅センターでは布教・研修・梅花の三部門いずれも精力的に活動しており、多端にも係らず参加して下さる部員の皆様が全力を尽くせるように各部長老師と相談し運営してまいりました。

そのほかにも宗務所会・本山研修・梅花大会など……振り返りながら思い出を語ると枚挙に暇がありません。

このように八年間でいただいた沢山のお役の中で、本当に大勢の宗侶・寺族・檀信徒の皆様親しく接していただきました。宗務所を利用してくださる大勢の方々のお顔とお名前を覚えたこと、私の名前と顔を大勢の方々覚えていただいたこと。何物にも代えがたい大切な財産と経験です。宗務所所員としてはこれで御仕舞ですが、この大切な財産と経験をこれからの人生と寺院運営に大いに役立てていきたいと思えます。

皆様におかれましては何処でお会いしましてもこれまでと同じように御指導御鞭撻の程、何卒宜しく御願ひ申し上げます。

平成27年度 曹洞宗梅花流 大本山總持寺六百五十回大遠忌参拝 梅花流全国奉詠大会と都内・いわきの旅

会場：横浜市・パシフィコ横浜「国立ホール」
期日：平成27年 5月28日

平成27年度の梅花流全国奉詠大会は5月27日・28日の両日に亘って、横浜市・パシフィコ横浜「国立ホール」にて行われます。
この勝縁に多数のご参加をお待ち申し上げます。

◎期日：平成27年 5月27日(水)～5月30日(土)… 3泊4日

行程表

月日	行 程	(※オールバスです。)	食事
5 / 27 (水)	5:00～6:30頃 各地 — 北上JCT — 村田JCT — 佐野藤岡IC — 蓮田SA — 12:30頃 15:30～17:00頃 川口JCT — 汐入IC — 總持寺650回大遠忌参拝 — 横浜泊 (洋室利用)		× 昼 夕
5 / 28 (木)	7:30 横浜 — 9:00頃 平成27年度 梅花流全国奉詠大会 於：パシフィコ横浜「国立ホール」 — 15:00頃 16:30頃 ホテル — 18:30～20:30頃 屋形船 — 21:00頃 東京都内泊 (洋室利用)		朝 弁 夕
5 / 29 (金)	9:00 都内 — 江戸東京博物館 — 東京スカイツリー見学 — 12:50頃 浅草 — 18:00頃 首都高速 — いわき湯本IC — スパリゾートハワイアンズ泊 (和室利用)		朝 昼 夕
5 / 30 (土)	8:30 ハワイアンズ — 白水阿弥陀堂 — あぶくま洞 — 12:15頃 郡山 — 郡山IC — 村田JCT — 北上JCT — 各地 — 18:30～20:00頃		朝 昼 ×

※観光地予約時刻・道路事情等によりコース及び順序が変更になる場合もあります。

編集後記

今年、戦後七〇年をむかえる年である。戦争の惨禍を深く思い二度と同じ過ちを繰り返さない決意を年の初めにと考えていたところ、あらためて命の大切さを考えさせられる事件が発生した。フランス週刊紙銃撃事件に続きパリ東部のユダヤ系食料品店では立てこもり事件が起きた。事件で尊い命を失った方々はどんなにか無念であつたらう。

そして、どこか遠い異国の出来事と考えていたら、「イスラム国」による邦人誘拐と殺害を予告する事件が発生した。この原稿を書いている時点では、誘拐された方々の解放等の解決は見えないでいる。無事解放を祈るばかりである。

先般、関東管区教化センターのご依頼を受け、土崎空襲についてお話をさせていただく機会を得た。土崎空襲は、終戦の前日である昭和二〇年八月十四日夜間から翌日の八月十五日の未明まで、秋田市土崎港周辺を標的として行われた大規模空襲である。こんなにも身近に尊い命を失った方々がいたことにもう一度思いを寄せたい。

越姓所長体制となり、手探りの中で引継ぎは終えたものの、私を含め慣れないことや、戸惑うことばかりである。編集作業も発行まで期間がない中で、「書肆えん」の横山氏にご迷惑をおかけした。

また、急な依頼や締め切りまでの期間が短いにもかかわらず、玉稿を寄せていただいた方々に、心から御礼申し上げます。これからも、所報の充実のために、変わらぬ御意見、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

(齋藤記)

仏教講座・野外研修

平成26年10月23日



恩徳寺様にて



長年寺様にて

相承

太祖瑩山紹瑾禪師

～大いなる足音がきこえますか～



二祖峨山韶碩禪師



大本山總持寺 御両尊大遠忌法会

二祖峨山韶碩禪師
650回大遠忌

平成27年10月7日～20日奉修

太祖瑩山紹瑾禪師
700回大遠忌

平成36年奉修



大本山總持寺大遠忌局

〒230-8686 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-1 TEL. 045-415-0052 FAX. 045-415-0053
E-mail daionki-sojo@sojiji.jp URL <http://www.sojiji.jp/>